

誓いの言葉

やわらかな春風に心華やぐ季節となりました。

本日は、私たちのためにこのような盛大な入学式を執り行っていただき、誠にありがとうございます。大学院新入生を代表して、心より御礼申し上げます。

私は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し始めた2020年4月に、日本福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程に入学し、昨年3月に同課程を修了しました。それから1年後の今日、大学院福祉社会開発研究科社会福祉学専攻博士課程に入学することになりました。人生最後の入学式でこの場に立てることをうれしく思います。

私は、法律事務所でソーシャルワーカーとして勤務しています。近年の少子高齢化と核家族化、価値観の多様化や生活不安の増大といった社会状況の中で、人々の抱える問題は複雑化しており、法的支援の場でも法律だけでは解決しきれない複合的な課題を抱える相談が増えており、福祉的視点での支援の必要性が認識され始めています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大は、人々の生活を直撃し、人と社会とのつながりに大きな影響を及ぼしました。社会とのつながりが断たれ、困難を抱えたまま孤立する人に寄り添い、支援の手を差し伸べるには、司法や福祉、保健医療、教育等の専門家が連携し、分野の垣根を越えた支援のネットワークを作ることが必要です。そして、福祉には、この支援ネットワークをつなぐ中心的役割を担いながら、自らが専門とする分野にとどまることなく、柔軟な姿勢で幅広い支援を展開していくことが求められています。そのためには、高度な専門的知識と実践力を身につけることが必要です。

福祉の現場で働く中で感じる問題意識を、研究という形で社会に還元しうる機会と環境を頂けたことに身の引き締まる思いです。この気持ちを忘れず、本学大学院生として学ぶことの喜びと自覚を持ち、これから日々精進して参りたいと思います。

最後になりましたが、この日を迎えるにあたり、ご指導いただいた先生方、支えてくれた家族、友人、そして本日も臨席いただきました皆さまに心から感謝申し上げ、誓いの言葉とさせていただきます。

2023年4月1日

大学院 新入生代表

福祉社会開発研究科社会福祉学専攻博士課程

宮田 千佳子